

●カロヤンプログレEXO

●カロヤンプログレEXD

【使用上の注意】

 使用上の注意 してはいけないこと

(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用が起こりやすくなります)

次の部位には使用しないで下さい。

(1) きず、しっしんあるいは炎症(発赤)等のある頭皮

(2) 頭皮以外



相談すること

1. 次の人は使用前に医師、薬剤師又は登録販売者に相談して下さい。

(1) 薬や化粧品等によりアレルギー症状を起こしたことがある人

(2) 高齢者(「用法・用量に関連する注意」の項参照)

2. 使用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性がありますので、直ちに使用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談して下さい。

(使用を中止し、水又はぬるま湯で洗い流して下さい)

関係部位	症 状
頭 皮	発疹・発赤、かゆみ、はれ
その他	全身性の発汗、それに伴う寒気、顔のほてり、ふるえ、吐き気

3. 使用後、次の症状があらわれることがありますので、このような症状の持続又は増強が見られた場合には、使用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談して下さい。

(使用を中止し、水又はぬるま湯で洗い流して下さい)

関係部位	症 状
頭 皮	刺激痛、局所発汗、熱感

【用法・用量に関連する注意】

1. 用法・用量を厳守し、過量に使用しないで下さい。(定められた用法・用量の範囲より多量に使用したり、あるいは頻繁に使用した場合には、副作用を発現する可能性が高まりますので注意して下さい)

2. 洗髪直後や湯あがり直後に使用する場合は、発汗等の副作用があらわれる傾向があるのでほてりをさましてから使用してください。

【解 説】

(1) 本剤には、刺激性のある成分が含まれているので、頭皮にきず、湿疹あるいは炎症(発赤)等がある場合には、その刺激によりかえって症状を悪化させるおそれがあります。

(2) 定められた投与経路、適用部位以外への使用は、思わぬ副作用や事故が発生するおそれがあります。

1.

(1) 共通事項解説〔7〕参照

(2) 共通事項解説〔6〕参照

2.

例示したような副作用症状が起こる可能性があります。これらの症状があらわれた場合には、症状の増悪や重篤な副作用への移行を未然に防ぐため、直ちに使用を中止し、使用している薬剤の成分等がわかる添付文書又は製品を持参の上、専門家に相談する必要があります。

3.

カルプロニウム塩化物水和物にはアセチルコリン様作用があり、例示のような一過性の軽い副作用としてあらわれることがあります。

直ちに使用を中止する必要はありませんが、症状が持続したり増強する場合は、使用を中止して洗い流してから専門家に相談する必要があります。

1 共通事項解説〔8〕参照

2. カルプロニウム塩化物水和物のアセチルコリン様作用により、特に湯上がりなどの後に使用すると例示のような症状が強くなる傾向があります。

●カロヤンプログレEXO

●カロヤンプログレEXD

【使用上の注意】

3. 一般に高齢者では生理機能が低下していることがあるので減量する等注意して使用して下さい。
4. 目に入らないように注意して下さい。万一、目に入った場合には、すぐに水又はぬるま湯で洗って下さい。なお、症状が重い場合には、眼科医の診療を受けて下さい。
5. 薬液のついた手で、目など粘膜にふれると刺激がありますので、手についた薬液は、よく洗い落として下さい。
6. 頭皮にのみ使用して下さい。

【保管及び取扱い上の注意】

1. 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に密栓して保管して下さい。
2. 小児の手の届かない所に保管して下さい。
3. 他の容器に入れ替えないで下さい。(誤用の原因になったり品質が変わります)
4. 本剤は化学繊維、プラスチック類、塗装面等を溶かしたりすることがありますので、床、家具、メガネ等につかないようにして下さい。
5. 染毛料等を使用している場合は、本剤の使用により、衣類や枕カバー等への色移りが起こることがありますので注意して下さい。
6. 表示の使用期限を過ぎた製品は使用しないで下さい。

【解 説】

3. 高齢者(おおよその年齢区分として65歳以上を指す)では、個人差はあるが、一般に心臓・血管系の機能、肝臓の代謝機能や腎臓での排泄機能等の低下が考えられます。
これらの生理機能の低下により、薬剤の作用が強くなり、あらわれるおそれがありますので、使用には注意が必要です。
4. 本剤が万一、目に入った場合、強い刺激を感じると共に、充血を起し腫脹をきたす等が考えられます。このような場合は直ちに目を水で洗い流し、薬液を取り除いて下さい。また、水洗いしても刺激がいつまでも続いたり、涙が止まらない場合には、眼科医の診療を受けて下さい。
5. 本剤に触れた手で、これらの部位に触れると、異常な刺激感や強い痛みを起すおそれがあります。
6. 定められた投与経路、適用部位以外への使用は、思わぬ副作用や事故が発生するおそれがあります。

1. 共通事項解説〔11〕参照
2. 共通事項解説〔12〕参照
3. 共通事項解説〔13〕参照
4. 本剤に有機溶剤(アルコール)が使用されているため、本剤が付着すると、化学繊維、プラスチック類、塗装面等を変質・変色させる場合があります。
5. 染毛料を使用した場合、毛髪に固着していない染毛料が十分洗い去られていれば衣類汚染を生じませんが、すすぎの足りない状態で本剤を使用すると、衣類を汚すことがありますので注意が必要です。
6. 共通事項解説〔17〕参照